

「AIで未来を切り拓く～「地域×AI」 広島からの挑戦～」の開催結果について

1 要旨・目的

本県がAI活用をリードし、地域課題の解決と新たな価値を創出していくための取組を進めていることを広く県民に周知するため、「AIで未来を切り拓く～「地域×AI」広島からの挑戦～」※を開催した。

※ 当イベントは、中国経済産業局が5日間にわたって開催するITイベント「Tech To The Future 2026」の中で、半日間の枠で開催したもの。

2 現状・背景

- 本県では、AIを積極的に利活用して、誰もが希望を持てる社会と未来を目指す「AIで未来を切り開く」ひろしま宣言の下、「HIROSHIMA AI TRIAL ～失敗を生かそう～」をスローガンに、「広島AIラボ」等の取組を行っている。
- これまでの「広島AIラボ」の探究活動の発表等を行ったイベントの開催結果の概要について、次のとおり報告する。

3 概要

(1) 実施主体

広島県

(2) 実施日時

令和8年2月10日（火）13:30～17:00

(3) 場所

広島大学東千田キャンパス SENDA LAB （広島市中区東千田町一丁目1番89号）

(4) 参加者

会場80人 オンライン374人（募集人員 会場80人 オンライン300人）

(5) 実施内容

ア 「広島AIラボ」探求報告（詳細は「別紙」のとおり）



表題（発表者）	内 容
AIを活用したBPR（業務改革）の探索的検証 情報主事 江盛 翔太	職員が自発的・自律的にBPRを進めやすくするため、AI技術を活用し、業務プロセスの可視化など業務整理の支援や、改善提案の可能性について検証。 今後は、職員の日々の業務整理等を支えるAI活用と、その過程で得られる知見やデータの組織的な蓄積方法も探索しながらAIを活用した効果的な県庁BPRの取組を進める。

A I を用いた県庁業務の生産性向上に向けた段階的アプローチの実証 情報主任 川崎 恵祐	進化するA I 技術を活用し、生産性向上を実現するため、A I エージェントなどの技術と現場の課題との最適な適合を段階的に見出していくアプローチを検証。 プロトタイプ構築により、小さく試しながら業務に適合させ、効果を検証するアプローチの確立に向け、職員がA I ツールを作成できる環境の構築を進める。
進路支援におけるA I 活用の可能性 情報主任 森永 雄一郎	学生の関心のあるキーワードの入力を元にA I が様々な切り口から研究テーマを提案することを通じて、漠然とした思いを具体的な進路選択肢へと繋げられるかを検証。 A I との対話を通じて、関心や価値観を段階的に引き出せるよう調整するとともに、個人情報への取扱いなど、運用面での課題への対応についても検討する。
A I による法面崩壊予測に関する取組 情報主事 大島 風雅	モルタル吹付の法面を対象に、画像診断A I を用いることによる、法面のクラックや植生などの変状の検出を通じて、法面崩壊リスクの評価に繋げる可能性の検証。 画像による網羅的なスクリーニングにより、既存の点検業務を補完するツールとなるよう、A I の診断結果と現場技術者の判断を比較しながら、A I の実装の可能性について評価する。

イ アイデア発表「次世代クリエイターが提案する“大崎上島×ゆるっとA I”」

表題（発表者）	内 容
佐々木造船チーム 広島大学 石黒琥太郎 広島工業大学 河村 駿太 広島商船高等専門学校 祐本 剛輝	造船現場における、外国人実習生に対する安全指示などを含む「確実な指示伝達」という課題に対し、多言語翻訳A I アプリの可能性について、使用する環境に合わせた機能など現場の声も踏まえて検討。
Chat Bot service “島ナビA I” 広島市立大学 増田 理裕 広島市立大学 向井 健悟 広島工業大学 赤瀬 空良 広島商船高等専門学校 味呑 大成	人とのつながりを大切にしたい大崎上島町観光協会の意向を踏まえ、島のファンを増やすという課題に対し、能動的な観光体験につながる観光情報アプリの可能性について、人を動かすための仕組みを考えながら検討。

ウ パネルディスカッション「地域未来の再設計：A I が拓く地域の力」

パネリスト：

広島県知事 横田 美香

東京都副知事 宮坂 学 氏

グーグル・クラウド・ジャパン日本代表 三上 智子 氏

(株) エクレクト代表取締役 辻本 真大 氏

(一社) シェアリングエコノミー協会代表理事 石山 アンジュ 氏

モデレーター：

広島県デジタル特別参与 須山 勇

内容：パネリストの取組状況や、A I が秘めている可能性や期待感についてそれぞれの立場から紹介した後、人口減少社会において地域に山積する課題に対して、主体的にA I を活用していく必要性などについて意見交換を実施。



4 今後の対応

広島A I ラボの探求をはじめとするこれまで得られたA I の知見を踏まえ、業務内容に応じたA I 技術が適切に活用できる環境を整備するとともに、A I を積極的に活用できる人材の育成を通じて、職員の生産性や県民サービスの向上を図る。

5 その他（関連情報等）

「Tech To The Future 2026」のHP

<https://www.chugoku.meti.go.jp/r7fy/event/digital/251217.html>